

備え

- ・経管栄養、吸入、着替え、紙パンツは3日分常備、自宅と学校に常備。
- ・学校は、日中過ごす場であること、指定避難所であることから、学校(小学校・中学校)にお願いをして置かせてもらっていた。
- ・中学では当たり前のように、常備品の期限の確認を学校の先生がしてくれた。

- ・吸引機は2台持ち 1台は自家用車に常備していた。

実際の状況

- ・常備品があったのに、慌てていてまた新たに作り直した。それくらい、動搖し慌てた。
- ・1階に置いた非常品は、浸水でダメになった。
- ・3日分では心配で栄養剤は通常より少なめに使った。
- ・家のストック分を取りに行き、汚れを注射用蒸留水で洗いながら使用した
- ・同じ障害がある子を持つお母さんが岩手から荷物を一杯運んできてくれた。当事者同士のネットワークが活きた。
- ・7日目に避難所にいた近所の人経由で自衛隊の支援を受けられ基幹病院から経管栄養を処方してもらえた。
- ・TVの取材が入ることで、必要な物資が供給された
- ・5日目に電源復旧した地域にいた知人が吸引機を充電するため交互に運んでくれ、それを使用した。
- ・電源確保は7日目(他県のボランティアにより)。

課題(必要)と思うこと

- ・あんな(怖い)経験をしながらも次第に防災意識が弱くなり常備品の管理を忘れてしまう。
- ・福祉避難所と言われるもののが動き出すまでは、自分で自分の地域の中で生きるすべを持っていかないといけない。

- ・指定避難所にも自家発電機が必要。

備え

・居室環境整備として
家具の転倒防止対策:
突っ張り棒、家具止め。

・避難のシミュレーション、過去に避難警報が出る度に迷わず避難を繰り返した。
・荷物も機械(吸引器)も持たなくてはいけないので移動手段は「車」と決めた。

実際の状況

家具止めが外れ、倒れてこないように押さえていた。そういう備えは帶に短し、たすきに長しだった。

・いろいろなためらいがあったが、常備品を持って避難行動がとれたのは、避難のシミュレーションができていたからと思う。ためらいは、寒いこと、ガソリンが満タンでなかったこと家庭用エレベータが止まり2階から抱いて降りることへの心配など。
・信号が落ちてる中の移動は渋滞で車が動かなかった。でも、横切らてくれた車があって移動できた。荷物も多いので徒歩は選べなかった。

課題(必要)と思うこと

・怖くて寝室にタンスは置けない、置かないことにした。

・避難を繰り返すほど「やっぱり来ないね」と気持ちが下がるが、でもする。
・健康状態が変化するとそこへの対応が第一になり防災意識が低下する。でも、考えておかないといけない。
・地域の避難訓練にも参加し「この避難所にはこういう人が来る」と認識してもらうことが大事。

| 備え | 実際の状況 | 課題(必要)と思うこと |
|--|---|--|
| <p>・避難所は「馴染みの小学校」と決めていた。</p> <p>通った学校で、当時の先生(教員)たちもまだまだいる、行きなれているためイメージがしやすい場所であるから。</p> | <p>・指定避難所は、地域の人、学校や子ども会で一緒にわかってる人たちがいたので、迷わず向かえた。</p> <p>・指定避難所は、エレベーターが止まっていることを予測し、抱いて登る覚悟で向かった。</p> <p>・避難所で知り合いが駐車スペースを確保してくれたため、早く2階以上に避難でき命が助かった(※数分後には1階は浸水、駐車場の車は流れている)。</p> <p>・物はないけれど、皆さんが優しく理解してくださったので、居心地は悪くない。</p> <p>・先生(教員)たちに意識があったかどうかわからぬいが、「支援が必要な人」という教室で過ごせた。</p> <p>・親しくはなくても「孫が同級生だよ」「学芸会で○○やった子ね」とみんなが存在を知ってくれ、お互いを気づかいあうことができた。</p> <p>・福祉避難所の開設を知ったのは1か月後、移動を勧められたが家族一緒に優先し断った。行政から「我がまま」と言われたが、家族や他の人の手を借りることができ指定避難所に残って良かったと思っている。</p> | <p>・指定避難所にも自家発電が必要。・避難所は、命を亡くさないために皆が迷わず、逃げ込めるところ、安心して逃げ込めるところである必要がある。</p> <p>・受援力を付ける。地域に「この子」の存在を知らせる。地域の行事への参加、日常の散歩、畠仕事の時みんなに声をかける(「畠作戦」!)。</p> <p>・福祉避難所の在り方として、ケアが必要な人だけをまとめる、という考え方は合理的ではあるが、マンパワー必要。</p> <p>・指定避難所と福祉避難所とどちらが適してるかの判断を誰がどんな基準で行うかが課題。</p> <p>・地域の中(の学校に通う)のが1番。しかし、ハードルは高い。1人でも2人でも理解してくれる人が増えると生活が変わると限らず。</p> |

| 備え | 実際の状況 | 課題(必要)と思うこと |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域で助け合う情報共有(行政・消防・警察などで)の仕組みがあり、「災害要援護者登録」をしていた。 「電力が必要」とも書いてある。 地域の人は人が良く、近所の支援協力者として引き受けってくれ2名記載。 ・利用していた市の障害福祉サービス事業所には避難所を報告していた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「災害要援護者登録」は全然いかされなかつた。 手紙を持たせて、基幹病院に搬送したが、迷子と思われ、そのまま避難所である小学校(電源の確保でき無い場所)に戻された。 ・障害福祉サービスの事業所からは安否確認が3~4日目であった。 ・私は湊に嫁いで、子どもたちを生み育て、その中にこの子もいて、同じく生活する中、震災に遭い、地域のつながりで、生かされたなって思う | <ul style="list-style-type: none"> ・近所の支援協力者も昼・夜・平日・休日で状況が変わる。使えるものにする必要がある。 ・支援協力はほしいが、地域の人にリスクを負わせたくない、という思いがある。 ・どこにいても適切なケアが受けられるような情報共有のシステムが必要。 ・被災後3~4日目の大変な時期にその状況を発信する方法の確立。 ・医療状況の更新システムの整備。 |